

## Voice from Atelier 'Plants'

この春、いつもの新作コーディネートを中心にしたメッセージペーパーの発行を計画している中、大震災が起きました。プランツに実質的な被害はなかったのですが、ほとんどの人がそうであるように私も無力感のようなものにとらわれ「私に出来ること、プランツとしてすべきこと」を模索していました。

今後、世の中がどうなっていくのだろうという不安感の中、結局はちゃんと仕事をして小額の義援金を送ったりすることしかできない自分に「なんて不要不急な自分・・・」を感じていました。

震災の報道がたくさん流れる中、多くの田畑や港、工場などが壊され、多方面への影響や復旧への努力が報じられているのを見て、日本には本当にたくさんの方のモノ作りの現場があることにあらためて気づかされる思いでした。

実家が農業をしているので農業への打撃というのは少しは想像がつくのですが、工業製品の部品などのことは全くわかっていませんでした。

服を作る中で、あらゆるモノ作りはそうそう簡単にはいかないと思ってきたはずなのに、他業種のことについて今までちゃんと想像してこなかったことに気づきました。

今回、このような手前みそも言えるアトリエ内の服作りの風景でメッセージペーパーを構成するに至ったのは、そんな思いがありました。

毎日のように布に触れ、新しい柄のことを考えたり、針でチクチクしたり、ミシンを踏んだりする自分にとっての日常を、このようなかたちでお客様に見ていただくことは照れくささや「そんな大層なことでもないよ」という気持ちもあったのですが、「モノ作りの気持ちのサイクル」が少しでも回ったらいいなと自戒も込めて発行させていただきました。

いつも埃にまみれながら、あわただしく動いているアトリエ内をとっても柔らかなタッチで映し撮ってくれたフォトグラファーの京子さん。ここにはあまり載せられなかったけれど、アトリエの庭に咲いたたくさんの方々の草花の写真に春も一緒に届けてもらった気がしました。

生きていくためにどうしても必要なものではないのだけれど、やっぱり写真のチカラもまた凄いなあと感じました。そして、このアトリエとこのしごとを続けていきたいと強く感じました。

最後にいつもわがままな制作に関わってくれている全てのひとと、このメッセージペーパーを手してくれた全てのひとたちに感謝いたします。ありがとうございました！

2011年 桜の咲く春に プランツ 川島知子



## Shop information

### Plantsショップ

モザイク銀座阪急2階フロアにリニューアルオープンしたPlants直営ショップにはオリジナル服をはじめ、コーディネートが広がる小物やアクセサリが揃っております。

またプランツ的ライフスタイルに似合うインテリア雑貨もおすすです。気さくなスタッフが皆さまのコーディネートをお手伝いさせていただきます。是非、お立ち寄り下さい。

〒104-0061 東京都中央区銀座5-2-1-2F

Tel : 03-3575-2045

open 10:30 ~ close 21:00 無休

### ■Plants WEB SITE

デザインコンセプトや商品コーディネートについてのほか、展示会情報、ショップブログなどを掲載しております。

<http://plants-tomoko.com>

〒238-0032

神奈川県横浜須賀野市平作1-21-6

tel. 046-851-2099 fax. 046-851-1519 E-mail: plants@monado.net

◆編集人: Yoko Nakajima

◆撮影協力: Kyoko Takahashi, (株)Jcor/Kotoe Takeda



東京メトロ丸の内線 銀座駅 銀座線 有楽町線 有明線 有楽町線 有明線 有明線

# Message from PLANTS' Message Paper #6 Small Atelier

## Respect for Handworks

だれもが何気なく着ている

「服」だけれど、思えば奥が深い

ものだと気づかされる。

人が衣をまとい、装うことを

始めたのはずっと昔のこと。

身体を覆うための原初的な始まりから、

個人のアイデンティティや

気持ちを表すもの、

そして個々の時代を映す

鏡となり、服は

「ファッション」という

文化として

進化していく。

この先「着る」ことは、

どのように変化して

いくのか？

人はこれから「服」に

何を求めるの

だろうか？



# Japan Made

## の自然服

普遍性・自然回帰思考・精神的充実感を  
体感出来るような「服のかたち」を探る。

デザイナー・川島知子が  
一つの提案として投げかけた  
小さなブランド「ブランツ」。  
四季の移り変わりが見てとれる庭に囲まれ、  
今日も小さな仕事場では人の手の温もりが  
美しい布に伝えられ  
一着の服に仕立てられています。



ブランツのアトリエはデザイナー・川島知子さんの住まいの横にある。  
様々な布があふれる小さなアトリエで皆、手を動かしている。  
こちらでは、布で小さなボタンをつくり、  
あちらではミシンを踏んで何枚もの端布をはぎあわせている。  
その間にも打ち合わせの電話がはいたり、川島さんの小さなお子さんが  
様子を見に来たり。あわただしく、皆も空気も動いている。  
そんな仕事場でいつも感じるのは、風通しの良さ。暖かさ。  
緑が広がる庭からの光や風のせいだけではない。  
仕事にかかわる日常のおしゃべり、お昼にみんなで囲む丸い大きなテーブル。  
作ることに暮らしとがひとつづきなのだ。  
人間が生きる為に作物をつくり、人らしく深くあるために装う。  
こんなことをしたら、もっと美しいからとおしみに手と時間をかける。  
そんな大昔から続いているいとなみ。  
ブランツの仕事はそんなところから生まれている。

高橋京子(フォトグラファー)

